

もわかった。

ポーフォート海は厚い氷のベールの下から、少しずつその素顔を現わしつつある。これまでの探査は、この地域がきわめて有望だということを示している。しかし

ベールの下から豊かなエネルギー資源をわれわれに贈ってくれるには、なお幾多の開発努力が必要だろう。その間に開発技術も環境保護技術も大いに進むにちがいない。ポーフォート海は、人々の大きな期待を背に、開発の夜明けを迎えた。

## 壊れやすい北極の自然環境

# 政府・企業が保護対策

北極の陸地は、ほとんどが永久凍土だ。土と岩と氷が混じり合い、一年中凍結した状態にある。夏になると表面は解けるが、その下は凍ったままである。だからいつたん車の轍がつくと、そこは以後何年にもわたって溝となり、氷が溜まる。油がこぼれば、いつまでも残る。

開発要員、掘削リグ、人工島、その他諸々の近代文明の利器の侵入によって、ただでさえ壊れやすい動物たちの生命連鎖が狂ってしまう可能性は大いにある。このため、カナダ政府は探査・開発の許可にあたって、これまできわめて慎重な態度をとってきた。

探鉱権を得るにはまず「連邦直轄地域土地利用規則」にもとづく多くの条件を満たさなければならない。この規則は一九七一年に制定され、七六年には適用範

囲が規模の大小を問わずすべての探査・開発作業に拡大された。条文には作業の時期、設備装置、動物生息地の温存、宿舎や作業現場での汚染防止措置などが具体的に決められており、事業者には開発地区の住民組織との事前協議が義務づけられている。探鉱の許可基準としてはほかに「北方内陸水域法」、「北極海汚染防止法」も適用される。

個々の作業を詳しく監視規制する中核的法律としては、六九年に成立した「石油・天然ガス生産・保護法」がある。同法によって政府は、北緯六十度以北の掘削、地質物理探査、生産、乱掘防止、輸送、加工処理等、石油・天然ガス開発の一切の作業を対象とした規則を制定する権限を得た。政府はまたポーフォート海初の掘削船方式の認可を四年間保留し、この

## 最北の居住地

グリーンランドと境を接するエルズミア島の北端（北緯八二・三二度）、北極点からわずか七百キロ足らずのところに、およそ二百人の男たちが住んでいる。ここは通信・気象観測を行うカナダ軍のアラート駐屯地だ。もちろん、人間が住む最北の地である。

アラート駐屯地の歴史は、一九五〇年にさかのぼる。その年、カナダ運輸省と米国気象局がここに共同気象観測所を設置することになったのである。滑走路がないので、資材はすべて飛行機からパラシュートで落とされた。一九五六年、当時の王立カナダ空軍は、通信研究を行うためこの観測所の近くに駐屯地を設営する。そしてその二年後、駐屯地は陸軍に移管され、施設も近代化された。

現在のアラート駐屯地には、文明の利器がすべて揃っている。兵舎には個室、台所、広間、洗たく機、乾燥機、有線テレビがあるし、北極だということのを忘れさせるほど快適だ。

ビデオ・カセット装置で、カナダや米国の放送局から送られる番組を一日八時間再放送しているし、映画も毎晩

上映している。また輸送機が、毎週一回、オンタリオ州南部のトレントン・カナダ軍基地から郵便物や新聞、雑誌を届けてくれる。FMラジオ局からは隊員のディスク・ジョッキーによる話をはさんで、二十四時間、音楽が流れる。

アラート駐屯地は「外部」の世界から隔絶し、しかも気温がしばしば零下五十度以下になるという厳しい環境にある。だが、隊員の生活環境には何の不便もない。五基のディーゼル発電機が一キロワット時の電力を供給しており、この電力で二キロ離れた湖から毎日パイプで運ばれる六万リットルもの水を温ためて暖房に使い、あるいはろ化して飲料に使っている。水道管はもちろん凍結防止用に被覆され、中に暖熱用電極をつけてある。

診療所もあつて簡単な治療を施して



いるが、重病患者や手術が必要な患者は、飛行機で南の病院へ運ばれる。救急患者の場合は、六七五キロ離れた米空軍のチューレ基地（グリーンランド）